

地域を支える国保直診

くまもと発

地域完結型医療の進化

〜人口減少・災害時代における

持続可能な医療とは〜



加藤清正像



熊本城

開催日

令和9年

5月14日金・15日土

会場

熊本城ホール シビックホール(熊本市):開講式・特別講演・全体討議・閉講式

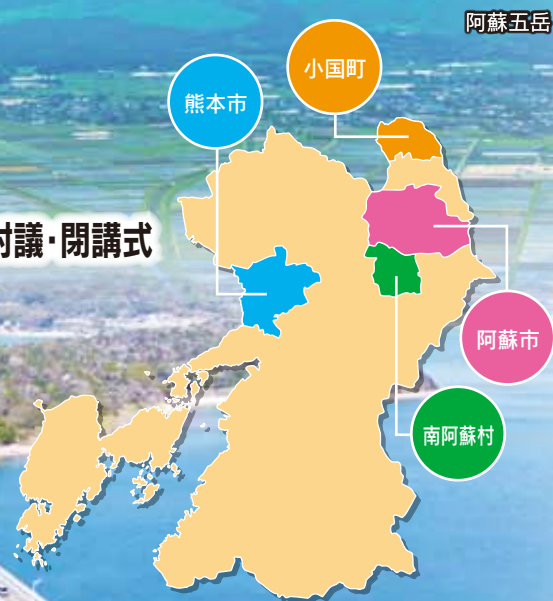
ラソールガーデン熊本(熊本市):地域医療交流会

研究施設

阿蘇医療センター(阿蘇市)

小国公立病院(小国町)

熊本地震震災ミュージアムKIOKU(南阿蘇村)



阿蘇五岳

天草



Aso City

阿蘇医療センター



「阿蘇医療センター」は、熊本県北部に形成された世界最大級を誇る阿蘇カルデラのほぼ中心に位置しています。阿蘇医療圏は全体が山岳地であり、その中部の阿蘇市をはじめ7つの市町村（人口約5.5万人）で構成されています。

当院は、特に脳・心疾患分野を中心とした阿蘇圏域の救急医療体制の整備等を主たる目的に移転新築し、2014年8月に開院しました。阿蘇圏域の政策医療機能を有し急性期医療を担う阿蘇市立の中核病院（一般120床、感染症4床、23診療科）で、へき地に「波野診療所（医科・歯科）」を併設しています。

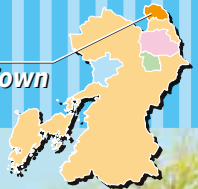
医師をはじめとした医療人確保、多職種連携の強化、人材育成等に注力し、救急・災害医療体制の充実化に取り組んでいます。2016年の熊本地震や新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、災害対応と感染症発生時のBCP（事業継続計画）の整備、定期的訓練の実施、DMAT等による災害支援体制の充実を図っています。

医療機能面においては、脳・心疾患診療、がん診療連携や外来化学療法、糖尿病予防、認知症予防のほか在宅医療支援に係る機能強化を推進し、圏域の医療機関・施設・訪問看護センターとの円滑な連携を進めています。また近時は、院内スマホとコミュニケーションツール、インカムとナースコールの連動、RPAの運用やAIによる業務効率化など、医療DXを積極的に進めているところです。

視察では、災害時に対応した建物内外の構造・設備、院内体制（搬送・トリアージ・院内動線等）、多職種によるチーム医療活動、情報の共有フロー、在宅医療支援体制、各部署機能などをご覧いただき、ご意見を賜る機会になれば幸いです。

小国公立病院

Oguni Town



当院は熊本県阿蘇郡小国郷に位置する、地域密着型の多機能病院です。築40年を超え、熊本県内の公立病院としては既存で最も古い施設ではありますが、現在、一次・二次救急を担うとともに、かかりつけ医機能を併せ持つ地域医療の中核としての役割を果たしています。

地域内には民間クリニックが2軒存在する一方、閉院となる診療所を小国公立病院が継承し、デジタル田園都市国家構想を活用した「デジタル診療拠点」として再構築しました。対面診療と遠隔診療、訪問診療を組み合わせたハイブリッド診療を提供することで、医師不足・移動困難地域における医療アクセスの維持・向上を図っています。

また、オンライン診療車「柴三郎号」により、小国郷内20か所で定期的なオンライン診療を巡回型で実施し、社会福祉士・看護師が同行する「D to P with N」の診療モデルを展開しています。超聴診器の活用に加え、保健師や救急救命士が地域へ出向く多職種連携モデルにも取り組んでいます。

さらに、自治体広報誌や地域ケーブルテレビ、公式LINEを通じた情報発信により、病院の取り組みを「見える化」し、住民との双方向の関係づくりを継続しています。ワクチン接種をはじめとする公衆衛生事業では、アプリを活用した接種管理を導入することにより、業務効率化と安全性向上を実現しています。こうした多面的な取り組みにより、地域医療の持続可能性を追求しています。



Minamiaso Village

熊本地震震災ミュージアム KIOKU



観測史上初、28時間以内に2度の震度7に襲われた熊本地震。「KIOKU」は、その記憶と教訓を未来へ継ぐ県域フィールドミュージアムの中核施設です。南阿蘇村の旧東海大学阿蘇キャンパス内に位置し、震災遺構や展示、シアターを通じて被災の事実や防災、自然との共生を学びます。甚大な被害の追体験から得られる「記憶」は、いつ起こるか分からない災害への備えとなり、未来を生きる私たちに重要な示唆を与えてくれます。